

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242020

研究課題名(和文) 画像解析と歴史・地理情報の高度活用に基づく荘園絵図の総合的研究

研究課題名(英文) a comprehensive study on pictorial maps drawn at medieval Japan by image analysis and historic geographical method

研究代表者

榎原 雅治 (Ebara, Masaharu)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40160379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,800,000円

研究成果の概要(和文)：全国に所在する中世荘園絵図の原本の調査、および高精細デジタル画像の分析によって、絵図の正確な読解、描かれた場と現地の対応関係、制作と保存の過程について研究した。また調査・分析の結果をデータとして蓄積するとともに、史料編纂所の他のデータベースと連携させて活用する仕組みについて研究した。研究成果は、2016年より史料編纂所より刊行予定の『日本荘園絵図聚影』釈文編・中世(全3巻)で順次公開予定である

研究成果の概要(英文)：1)We investigated pictorial maps that were drawn at medieval Japan by observation of the originals and the high-definition digital images. And we have obtained correct understanding about items which are drawn on each pictorial map, geographical location of places drawn, and the process from which each pictorial map was produced and had been kept also. 2)We have accumulated the results of our analysis on information system of Historiographical Institute(HI), and have constructed the system to utilize our data base by connecting to other data base owned by HI. Research results above will be shown on “日本荘園絵図聚影 釈文編 中世” sequentially, which are expected to be published by HI.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 荘園絵図 史料学 歴史的景観

1. 研究開始当初の背景

古代・中世荘園絵図に関する研究は、1970年代に主要絵図を収めた大型図版集が登場したことによって劇的發展をとげた。絵図集刊行の嚆矢となったのは、西岡虎之助編『日本荘園絵図集成』(東京堂出版、1977年)であるが、東京大学史料編纂所(以下、史料編纂所)では、西岡の仕事を継承発展させるために、現存する300余点の絵図につき、大型の図版を収めた『日本荘園絵図聚影』(以下、『聚影』と記す)の刊行に着手し、約15年を経て2002年に全7冊をもって完結した。『聚影』の刊行の進捗とともに、荘園絵図に関する論が史料編纂所内外の研究者によって多数発表され、解釈をめぐる論争も活発に交わされた。それにともない、編纂過程で得られた諸情報(原本の観察所見・絵図中の文字や事物の読解・関連史料および文献、現地調査情報など)の公開・発信が要請されるに至った。

このような要請を受けて、史料編纂所においては2000年度より基盤研究(B)「荘園絵図史料のデジタル化と画像解析的研究」(代表・黒田日出男、2000-2001年度)を、2004年度より基盤研究(A)「荘園絵図の史料学とデジタル画像解析の発展的研究」(代表・林譲、2004-2007年度)を得て、絵図調査・研究そのものの深化を図ると同時に、『聚影』に収められなかった諸情報について、表現や発信の方法を探ってきた。その結果、学界の要望に的確に応えるためには、『聚影』に続く出版を継続すると同時に、あわせてデータベース(以下、DBと記す)の形でデジタル情報を提供することが最良であると判断した。絵図原本の観察所見や釈文など紙媒体に適するものは『日本荘園絵図聚影 釈文編』(以下『釈文編』と記す)として刊行し、現地空間に関わる調査情報や当該領域に関連する史料・史跡・遺跡などについては史料編纂所歴史情報処理システム(以下SHIPSと記す)

にて発信し、両者を有機的に関係づけることを目指したのである(『聚影』釈文編—古代は2007年に刊行)。この方針は2008年度より基盤研究(A)「画像解析とフィールドワークに基づく荘園絵図情報システムの構築」(代表・高橋敏子、2008-2011年度、以下高橋科研と記す)に引き継がれ、着実に成果を積み重ねてきた。

2. 研究の目的

本研究は、史料編纂所にて蓄積してきた古代・中世荘園絵図に関する研究方法を継承・発展させるとともに、その成果をより広く歴史史料一般の分析に援用することをめざすものである。第一に、原本調査の方法論をより精緻化し、絵図以外の画像史料研究へ応用を推進する。第二に、荘園故地の現地調査方法をより鍛え、絵図読解を深めるとともに、調査情報を最新デジタル機器によって数値情報化し、系統的に記録・保存する。第三に、蓄積された調査情報の集約・公開方法を鍛え、紙媒体と電子媒体の有機的な分業を実践する。あわせて地理情報を用いた荘園絵図研究の進展を図り、さらに文書や記録とリンクさせることで、史料編纂所歴史情報処理システム(SHIPS)上にて時間と空間を結ぶ試みを実践する。第四に、調査情報のうち公開には至らなかったデータ群について、組織的に維持・保存を図り、後の検証・利活用に備える体制を構築する。

3. 研究の方法

(1)中世荘園絵図原本の調査については、西日本地域を対象に調査を進める。あわせて荘園絵図を分析する方法論を鍛え、隣接画像史料の調査へと応用を図る。

(2)代表的荘園絵図に関する現地調査については、『聚影』に収録予定の絵図の現地踏査、および当該地域に所在する近世絵図や文献史料の収集を行い、絵図表現についての理解を深める。

(3)デジタル情報による関連情報の発信につ

いては、「莊園絵図模本 DB」に原本情報を更新・追加するとともに、史料編纂所「地理情報蓄積システム」と有機的に結び付け、登録された諸情報を参照表示できるよう設計する。また「蓄積システム」をより多くのSHIPS-DBと連携させ、コンテンツの増強を図ってゆく。

(4)蒐集された諸情報の維持・保存という点では、生成される情報の形式・性格を分類し、サーバ上でいかに維持・保存するか検討する。また規格外データの共有保存システムにむけて実践を進める。

4. 研究成果

(1)中世莊園絵図原本の調査・観察

研究期間内に実施した原本調査は下記のとおりである。

2012年度：神奈川県鎌倉市鎌倉国宝館（同館寄託円覚寺所蔵「円覚寺領尾張国富田庄絵図」・同館寄託明月院所蔵「明月院古図」）、京都府京都市京都府立総合資料館（同館所蔵「摂津国垂水庄指図」）、京都府京都市醍醐寺（同寺所蔵「笠取庄絵図」）、奈良県奈良市西大寺（同寺所蔵「西大寺秋篠寺相論絵図」）、兵庫県あわじ市護国寺（同寺所蔵「淡路賀集八幡宮絵図」）、佐賀県伊万里市親種寺（同寺所蔵「親種寺絵図」）

2013年度：福岡県福岡市博物館（同館所蔵「聖福寺古図」）、京都府綾部市資料館（同館寄託「丹波安国寺絵図」）、広島県福山市吉備津神社（同社所蔵「備後吉備津宮絵図」）、神奈川県鎌倉市浄光明寺（同寺所蔵「浄光明寺境内絵図」）、神奈川県鎌倉市鎌倉国宝館（同館寄託円覚寺所蔵「円覚寺境内絵図」・「尾張国富田庄絵図」）、同館寄託黄梅院所蔵「黄梅院古図」・「円覚寺華嚴塔図」）

2014年度：新潟県上越市居多神社（同神社所蔵「居多神社四至絵図」）、京都府京都市京都国立博物館（同館寄託天龍寺所蔵「嵯峨舎那院領絵図」・「嵯峨龜山殿近辺屋敷地指図」・「臨川寺領大井郷界畔絵図」・「山城国諸寺応

永鈞命絵図」、同館寄託高山寺所蔵「神護寺領高雄山絵図」・「主殿寮領小野山与神護寺領堺相論指図」・「高山寺絵図」、同館寄託松尾大社所蔵「松尾社境内図」）、和歌山県湯浅町施無畏寺（同寺所蔵「施無畏寺境内絵図」）、2015年度：大阪府大阪市住友倉庫（兵庫県尼崎市大覚寺所蔵「摂津国長州御厨大覚寺絵図」）、滋賀県彦根市滋賀大学経済学部附属史料館（同館寄託滋賀県長浜市西浅井町菅浦区所蔵「近江国菅浦与大浦下荘堺絵図」）、石川県穴水町明泉寺（同寺所蔵「明泉寺境内絵図」）

上記の調査によって、個々の莊園絵図について、下記の事項を解明することができた。

描画線や文字の重なり具合や抹消の状況、角筆の有無などの観察によって、それぞれの莊園絵図の制作の過程や制作の意図を知ることができた。

顕微鏡を用いた彩色の観察によって、彩色の成分、退色の有無を解明し、本来の色相を推定することができた。

料紙の折り方、折線や糊跡の状況の観察によって、成立以来今日まで保存されてきた状況の変遷を推定することができた。

(2)莊園絵図に関する現地調査の重点的実践
研究期間内に実施した現地調査は下記のとおりである。

石川県穴水町「明泉寺境内絵図」の現地および関係史料の調査、京都府南丹市「丹波国吉富庄絵図」の現地および関係する新出文書「大谷村佐々木文書」伝来現地の調査、兵庫県あわじ市「淡路国賀集八幡宮境内絵図」の現地および関係史料の調査、鳥取県湯梨浜町「伯耆国東郷荘下地中分絵図」の現地および関係史料の調査、佐賀県伊万里市「親種寺絵図」の現地調査

上記のような中世莊園絵図に描かれた現地の实地踏査を実施することによって、絵図に描かれた社寺や道路などの存在を確認することができた。また当該地域に残る近世絵図

や新たな中世史料を見つけることができた。

(1)(2)の成果は、『日本荘園絵図聚影』釈文編二・中世一(2016年4月刊行)に反映されている。続刊にも反映される予定である。

(3)デジタル情報による関連情報の発信

中世荘園絵図に描かれた地形や地点を、最新のデジタル地理情報に置き換え、サーバ上に蓄積することで、「史料編纂所所蔵荘園絵図模本データベース」をはじめ、史料編纂所公開のデータベース群からの参照・応答を実現し、あわせて地図表示インターフェイスを開発することで、ビジュアルな表示機能を付与した。

(4)蒐集された各種情報の組織的維持・保持

調査を通じて蒐集した大型絵図史料の原本情報について、史料編纂所が従前に蓄積している古文書・古記録ほか多様な史料メタ情報とともに利活用するために、汎用的なデータ構造の確立を実践し、あわせて統合運用をめざしたシステム構築を推進した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計62件)

井上聡「史料編纂所所蔵荘園絵図模本データベースと地理情報蓄積システムの連携について」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』(査読無)72、2016年、pp26-27

榎原雅治「歴史地震資料情報の集約と共有化」『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集』(査読無)6、2015年、pp1-5

西田友広「中世前期の検断と国制」『歴史学研究』(査読無)937、2015年、pp53-61

榎原雅治「古文書で読む自然と人間のかかわり」『SEEDer』(査読無)2015-12、2015年、pp33-39

藤原重雄「画像資料と歴史研究・叙述・教育」『岩波講座日本歴史史料論』(査読無)2015年、pp125-152

井上聡「荘園調査成果の共有をめざして」『アジア遊学』(査読無)178、2014年、pp181-192

井上聡「豊前佐田山と豊後山香郷の堺相論史料について」『大分県立歴史博物館研究紀要』(査読無)15、2014年、pp41-56

榎原雅治「歴史資料としての地名の活用」『地名に関する情報技術に関する研究会

報告書』(査読無)2014年、pp1-10

藤田裕嗣「地籍図を用いた景観復原と災害復興」『史潮』(査読無)新76、2014年、pp5-21

高橋敏子「中世百姓の身分意識」『アジア遊学』(査読有)178、2014年、pp146

高橋慎一郎「中世都市と禅宗寺院」『東アジアのなかの建長寺 宗教・政治・文化が交叉する禅の聖地』(査読無)2014年、pp319-328

高橋慎一郎「中世都市論」『岩波講座日本歴史中世2』(査読無)2014年、pp255-283

井上聡「神領興行法再考」『東京大学日本史研究室紀要』(査読無)別冊、2013年、pp217-230

西田友広「江津・都野津と江要害」『東京大学日本史研究室紀要』(査読無)別冊、2013年、pp169-180

藤原重雄「最勝光院御所障子絵をめぐる」『仏教美術論集』(査読無)4、2013、pp114-134

藤原重雄「海の見える杜美術館所蔵「鞍馬寺縁起絵」模本について」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』(査読無)62、2013年、pp13-18

藤原重雄「観興寺縁起絵」における在地的描写 掛幅縁起絵の景観表現」『中世絵画のマトリックス』(査読無)2013年、pp156-189

井上聡「荘園絵図調査の実践から」『民衆史研究』(査読無)85、2013年、pp3-10

榎原雅治「消えた水辺の風景」『科学』(査読無)82-11、2012年、pp1218-1223

榎原雅治「中世東海道の宿と渡の空間構成」『考古学と中世史研究』(査読無)9、2012年、pp156-173

② 榎原雅治「中世東海地方の海岸平野の形成と人々」『環境の日本史』(査読無)3、2012年、pp62-87

[学会発表](計53件)

榎原雅治「鎌倉時代から戦国時代の東海道と宿場」豊橋市文化財保護講演会、2015年11月14日、穂の国豊橋芸術劇場(愛知県豊橋市)

高橋敏子「東寺百合文書のこれから 新たな地平をふまえて」2015年第2回国際京都学シンポジウム「東寺百合文書の現在と未来」2015年10月12日、京都府立大学(京都府京都市)

西田友広「中世前期の検断と国制」歴史学研究会大会、2015年5月24日、慶応大学(東京都港区)

西田友広「中世山陰の「入り海」の世界」古代出雲歴史博物館「入り海の記憶」関連講座、2015年4月26日、古代出雲歴史博物館(島根県松江市)

榎原雅治「歴史地震資料情報の集約と共有化」人文科学における災害情報の共有

化に関する研究会、2015年3月28日、
京都リサーチパーク（京都府京都市）
原正一郎「学術情報の公開と利活用を支援する情報基盤の構築」東京大学史料編纂所共同研究拠点と歴史情報シンポジウム「史料情報の新たな発信」、2015年1月24日、東京大学（東京都文京区）
井上聡「地理情報蓄積システムの構築とSHIPS-DBによる活用」東京大学史料編纂所共同研究拠点と歴史情報シンポジウム「史料情報の新たな発信」、2015年1月24日、東京大学（東京都文京区）
榎原雅治「中世東海道と三河地方」中世史様セミナー、2014年8月27日、ホテル竹島（愛知県蒲郡市）
榎原雅治「歴史資料としての地名の活用」H-GIS研究会、2014年7月19日、情報基盤センター（東京都千代田区）
榎原雅治「中世三河地方と東海道」岩瀬文庫講座、2014年3月29日、西尾市立図書館（愛知県西尾市）
榎原雅治「室町殿中申次について」室町期研究会、2013年12月15日、明治大学（東京都千代田区）
高橋慎一郎「中世都市と周辺地域」日本都市史のなかの平泉、2013年11月13日、一関文化センター（岩手県一関市）
井上聡「デジタル画像を用いた歴史史料管理体系の再構築」日本写真学会写真保存セミナー、2013年11月11日、東京都写真美術館（東京都目黒区）
藤田裕嗣「「海港都市研究」の射程」国際学術シンポジウム「東アジアの近代と海港都市」、2013年11月8日、木浦（大韓民国）
榎原雅治「イェール大学バイネッケ図書館所蔵「平氏文書」について」イェール大学日本史料ワークショップ、2013年10月8日、ニューヘブン（アメリカ合衆国）
高橋敏子「中世百姓の身分意識」早稲田大学総合人文科学研究センター・高等研究所共催シンポジウム「アジアの水利問題と国家・社会」、2013年7月13日、早稲田大学（東京都新宿区）
榎原雅治「地名が語る日本の中世」鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会、2013年2月22日、鹿児島県歴史資料センター黎明館（鹿児島県鹿児島市）
金子拓「史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オントロジー構築の研究」S科研による史料のデジタル収集と調査研究・データベースの成果、2013年2月21日、東京大学（東京都千代田区）
藤原重雄「日吉山王利生記絵巻」スパンサーコレクション絵入り本解題目録作成のための総合的調査研究会、2013年1月6日、国文学研究資料館（東京都立川市）
井上聡「荘園絵図調査の実践から」民衆史研究会、2012年12月15日、早稲田大学（東京都新宿区）

〔図書〕(計6件)

金子拓、吉川弘文館、『織田信長権力論』、2015年、415頁
飯沼賢司、同成社、『国東六郷山の信仰と地域社会』、2015年、316頁
藤原重雄、山川出版社、『史料としての猫絵』、2015年、108頁
藤原重雄（分担執筆）、京都文化博物館、『京を描く 洛中洛外図の時代』、2015年、pp226-235
金子拓、講談社、『織田信長（天下人）の実像』、2014年、296頁
高橋慎一郎、吉川弘文館、『北条時頼』、2013年、268頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榎原 雅治 (EBARA, Masaharu)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：40160379

(2) 研究分担者

高橋 敏子 (TAKAHASHI, Toshiko)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：80151520

鴨川 達夫 (KAMOGAWA, Tatsuo)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：60214566

高橋 慎一郎 (TAKAHASHI, Shinichiro)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：10242158

金子 拓 (KANEKO, Hiraku)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10302655

藤原 重雄 (FUJIWARA, Shigeo)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：40313192

井上 聡 (INOUE Satoshi)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20302656

西田 友広 (NISHITA, Tomohiro)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：90376640

飯沼 賢司 (IINUMA, Kenji)
別府大学・文学部・教授
研究者番号：20176051

藤田 裕嗣 (FUJITA, Hirotugu)
神戸大学・文学部・教授

研究者番号：10181364

原 正一郎(HARA, Shoichiro)
京都大学・地域研究統合情報センター・教授
研究者番号：50218616

(3)連携研究者

久留島 典子(KURUSHIMA, Noriko)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：70143534

村井 祐樹(MURAI, Yuki)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20323660

山田 太造(YAMADA, Taizo)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：70413937

村岡 ゆかり(MURAOKA, Yukari)
東京大学・史料編纂所・技術専門員
研究者番号：00422436

谷 昭佳(TANI, Akiyoshi)
東京大学・史料編纂所・技術専門職員
研究者番号：70532670

高橋 典幸(TAKAHASHI, Noriyuki)
東京大学・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：10292799

青山 宏夫(AOYAMA, Hiroo)
国立歴史民俗博物館・歴史研究系・教授
研究者番号：00167222

高橋 一樹(TAKAHASHI, Kazuki)
武蔵大学・人文学部・教授
研究者番号：80300680